

教室はまちがうところだを読んで

第二峡田小学校 四年 稲葉 祐月

この間、落語のじゅげむの発表会がありました。初めて練習したときは、うまく話せなくて、だれも笑ってくれませんでした。けれど、先生がたくさん練習の時間をくれたのでとても上手になり、本番の発表のときには、たくさんの方が笑ってくれたのでうれしかったです。

柳田先生はこんな経験はありますか。私は小学4年生の女の子です。私は間ちがえたり失敗したりしても学校が大好きです。間ちがえても、失敗してもだれも笑わないからです。

この話は間ちがえてもいいと知った子が勇気を出して手を挙げるお話です。

私がこの本の中の先生の言葉で印しように残ってい

るのは、「おまえがへんだと言われたって思っただか
らしょうがない。」というところでした。先生は子ども
ちに、自分の意見に自信をもつことが大切だと伝えたか
ったのだと思います。その結果、ずっと手を挙げられな
かった子も手を挙げられるようになりました。

私はこの本を読んで、この教室はすごいなあと思いま
した。理由は2つあります。一つ目は、最後には、教室
の全員が手を挙げられるようになったことです。私のク
ラスはまだクラス全員が手を挙げるといふことではないの
で、この教室を見習いたいです。二つ目は、目標がきち
んと達成できていることです。私にも、たくさん目標
があります。例えば、音楽会を成功させることです。私
の学校では今年音楽会があります。本の中の教室みたい
に、失敗をおそれずに、クラスのみんなで音楽会を成功
させたいと思っています。

私はこれからも間ちがえたり、失敗したりしても、教室でたくさん手を挙げて、たくさん発表していきたいです。柳田先生もぜひこの本を読んで、失敗をおそれない勇気を感じてほしいなあと思います。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

落語のじゅげむの発表会のために、練習を始めたときには、うまく話せなかったところから手紙を書き始めて、いきなり、「私は間ちがえたり失敗したりしても学校が大好きです」と、はつきりと言い切る心構えに、圧倒されました。立派な勇気を持っているなと感じたのです。

それだけの勇気を持てるようになったのは、一冊の本、『教室はまちがうところだ』だったのですね。

本の中の先生が子どもたちに、たとえへんだと思われても気にしないで、手をあげて自分の考えを発表できる子になるように、

勇気を持ったための心構えを話しますが、稲葉さんはその言葉から一番影響を受けたようですね。

そして稲葉さんは、本の中の教室がなぜすごいのかについて、きちんと整理して、二つに絞っています。一冊の本に感動したときには、どういう点に感動したのかを、このようにきちんと整理して書くと、しっかりと記憶に残るのです。

すごい理由とは、一つ目は全員が手をあげることで、二つ目は目標をきちんと達成できていることです。

しかも私が感心したのは、すごいと思ったことを整理しただけでなく、それぞれについて自分のクラスはどうかと比較して、自分たちの課題を浮かび上がらせた点です。

私もこの本を読んで学びましたよ。ありがとうございます。